

## [要約] 沖縄県における 1977-2015 年間のハブ類咬症の症状ならびに治療の様式 8 - 抗毒素注射の有無と受傷からの経過時間

安座間安仙・西村昌彦\*・照屋盛実・盛根信也\*\*・古謝あゆ子

### [Summary] Symptoms and Treatments at the Bites of Viperid Snakes in Okinawa Prefecture from 1977 to 2015 (8) - Antivenom Usage and Time Interval between Bite and Injection

Yasuhito AZAMA, Masahiko NISHIMURA\*, Morimi TERUYA, Nobuyo MORINE\*\*,  
and Ayuko KOJA

全文掲載, All content : [https://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/eiken/syoho/syoho56\\_60.html](https://www.pref.okinawa.jp/site/hoken/eiken/syoho/syoho56_60.html)

Key words: ハブ, サキシマハブ, ヒメハブ, 抗毒素注射, 注射までの経過時間, 咬症, 症状, 治療, 沖縄県, Viperid snake, *Protobothrops*, *Ovophis*, Antivenom injection, Time interval before injection, Symptom, Treatment, Okinawa Prefecture

#### [要約]

沖縄県における 1977-2015 年間のハブ 2730 件, サキシマハブ 1388 件, ヒメハブ 469 件の咬症資料を用いて, 抗毒素注射の有無ならびに受傷から注射までの各経過時間における, 受傷後の症状と治療の各項目の頻度を調べた. 各ヘビ種の咬症資料のうち集計と比較の対象としたのは, 全咬症に加え既報にて差異が認められた受傷部位, 医療機関, 時代別の咬症とした. 以下では, 複数例で同様の傾向が認められた結果をおもに記述する.

抗毒素注射が有りの場合の頻度については, 複数例で同様の傾向が認められたすべての例において, 以下の様に症状と治療の各項目の程度が大きい傾向があった. 疼痛有りの頻度が, ハブの M15 (医療機関の略号, 以下も同様) 受診例で高かった. 腫張有りの頻度はハブとヒメハブの, 出血有りの頻度はハブとサキシマハブそれぞれの全咬症で高かった. 治療期間が 7 日や 14 日以上などの長期の頻度が, ハブの全咬症と各主要病院受診例と手指への受傷, サキシマハブの全咬症と 1988-2000 年の咬症, ヒメハブの全咬症で高かった. また, 入院有りと入院 7 日以上頻度が, ハブの全咬症と各主要病院受診例と手指への受傷, サキシマハブの全咬症と M71 受診例の大部分と手指咬症の一部で高かった. ヒメハブでは入

院有りの頻度が全咬症と主要 2 病院受診例で高かった. 機能障害有りの頻度が, ハブとサキシマハブとも全咬症で高かった.

抗毒素注射が有りのうち, 受傷から注射までの経過時間が, 0.5, 1, 2 時間のいずれかより大における頻度において認められた傾向を, 以下に記す. 疼痛有りの頻度が, ハブの全咬症で高かった. 腫張有りの頻度が, ハブとサキシマハブそれぞれの全咬症で高かった. いっぽう, 出血有りの頻度はハブの全咬症で低かった. 抗毒素注射有りのうち使用量 30 ml 以上の頻度が, ハブの全咬症で高かった. ハブでの治療期間は, 7 日以上頻度が 9 例中 7 例で低く, 14 日以上と 30 日以上頻度が M38 受診例で高かった. ハブでは, 入院が有りと 7 日以上頻度が, 全咬症ならびに手指への受傷で高かった. サキシマハブでは, 入院が 7 日以上頻度が 3 例とも低かった. ヒメハブでは, 入院が 7 日以上頻度が全咬症ならびに M38 受診例で高かった. 機能障害有りの頻度は, ハブの全咬症で低くサキシマハブの全咬症で高かった.

\*元 沖縄県衛生環境研究所職員 \*\*現所属 中部保健所